

科目区分：国語教育専修・国際理解教育コース，日本芸能史
担当教員：小助川元太

能・狂言の歴史に触れる

担当教員：小助川元太

1. 授業の概観

日本芸能史は、学校教育実践コース国語教育専修の国文学分野の選択科目であり、また、総合人間形成過程国際理解コースの日本アジア理解分野の選択科目でもある。本授業では日本の代表的な古典芸能であり、和の文化を象徴するものの一つである能狂言にテーマを絞り、渡来芸能としての散楽から徳川幕府に式楽として保護されるまでの、猿楽能の史的展開を辿ることとした。

これには、愛媛・松山が江戸時代から能楽の盛んな地であったことを踏まえ、学生に地域文化を理解してもらうためのきっかけとしたいという思いもあった。また、国語の新しい学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されることになっているが、このような流れの中で、以前から参考程度に教科書に掲載されてきた〈柿山伏〉などの狂言台本も、新しい検定教科書では授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生には、能狂言に関する正しい知識を身につけさせる必要があると考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

能狂言の形成・展開を学び、テキストを読解することによって、日本を代表する芸能を深く知り、和の文化を見直すきっかけとする。

【授業の目標】

1. 能狂言に関する基礎知識を身につける。
2. 能狂言が他のジャンルの芸術に及ぼした影響を説明することができる。
3. テキストの読解を通して、能狂言に関する知識を深める。

上記の目的・目標を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 能・狂言の歴史→テキスト（石井倫子『能・狂言の基礎知識』）を用い、適宜資料を補いながら講義を行う。
2. 作品講読→能の台本（謡曲）を読む。
3. 作品の鑑賞→能や狂言の実際の舞台をDVD等で鑑賞する。

【実際の授業内容】

- 第1回：ガイダンス。授業の進め方
- 第2回：散楽から猿楽へ
- 第3回：神事芸能と演劇
- 第4回：翁猿楽（『風姿花伝』第四「神儀云」）
- 第5回：観阿弥の登場
- 第6回：観阿弥の大改革・〈自然居士〉講読
- 第7回：世阿弥と義満
- 第8回：世阿弥の伝書
- 第9回：世阿弥の能・〈忠度〉講読
- 第10回：元雅について・〈隅田川〉講読
- 第11回：世阿弥と元雅の論争・音阿弥
- 第12回：音阿弥と義教
- 第13回：金春禅竹の能・〈定家〉講読
- 第14回：風流能と手猿楽
- 第15回：試験と解説

【成績評価】

試験（60%）、レポート（20%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

2. 授業評価法

授業評価については、試験前の第14回目の最後に匿名のアンケートを行った。（24名）質問項目は下記のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
ア 真面目に取り組んだと思う。（12名）
イ ときどき集中していなかったときもあった。（12名）
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。（0名）
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
ア 理解しやすかった。（18名）

- イ ふつうだった。 (6名)
- ウ 難しかった。 (0名)
- カ その他 (0名)

3. とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？ (以下抜粋)

- ・実際に授業で学んだ能を映像で観たこと。
- ・DVDで実際の狂言を観たこと。
- ・秀吉・家康や足利将軍たち国のトップになった人たちが、能が大好きだったということ。
- ・世阿弥について。
- ・世阿弥の伝書。
- ・観阿弥・世阿弥について。
- ・世阿弥の複式夢幻能。
- ・能の本説 (『源氏物語』『伊勢物語』など)。
- ・金春禅竹の〈定家〉
- ・〈隅田川〉の演出に関する世阿弥親子の論争
- ・能と歴史との関係

4. どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？ (以下抜粋)

- ・(世阿弥は)観阿弥の息子だから、二代目として順風満帆な人生を送ったのかと思っていました。(中略)結構壮絶な人生だったことがわかり、面白かったです。
- ・〈隅田川〉で、みんなで議論したのはおもしろかった。文章を解釈してからどちらがおもしろいだろうと考えることがおもしろかった。
- ・文字のみでは実際の内容や雰囲気、面白さを感じられない部分もあるが、動画を見るとこれらを目や耳で実際に感じられたところ。
- ・権力者に影響を受けながら、能狂言が発展し、継承されてきたのだというところ。

5. 意見・要望・感想・メッセージ (以下抜粋)

- ・授業中、教科書に載っていないことも教えてもらったので、あまり疑問に感じることはありませんでした。
- ・正直、この授業を受けるまでは、能や狂言は私たちがみても退屈なものだというイメージがありましたが、様々な背景を学んだり、動画を見ることで「おもしろい！もっと観たい！」と思いました。本当に実際に生の演技を観てみたいです。もし愛媛で公演があれば、授業の一環で行くのも良いと思います。
- ・もう少し、〈隅田川〉や〈定家〉のように、能の内容を読んでいくのがあったらいいなと思いました。
- ・もっと能・狂言を観たかった。
- ・テキストをもっと使ったほうが良い。
- ・能・狂言について、知識として知るだけでなく、実際に映像で観ることができたのが良かった。

- ・能のビデオは、先生の解説(「今、〇〇しているところ」とか)がないと、わかりにくいものもありました。でも、勉強したことをビデオの中で確認できるし、目で見たことは印象にも残るし、能や狂言の演技を見る機会は貴重なので、ビデオやDVDを活用した授業がわかりやすかったです。
- ・最初は本当に馴染みがなく不安でしたが、とてもわかりやすく理解できました。以前はテレビなどで能・狂言が出るとすぐにチャンネルを変えていたのですが、最近は見ようになりました。まだまだ知識は浅いですが、日本の大切な芸能なので、いつかは本物を見てみたいなあと思います。
- ・このような機会がなければ、日本の伝統芸能である能や狂言に触れることはなかったと思うので、受講して良かったです。ビデオ見るのは面白かったです。やはり話を聞くのと映像を見るのではイメージの拡がり方が全然違うなと感じました。

4. まとめ

1の項目は、ほぼ同じ受講者数の昨年度のアンケートでは、圧倒的にイ「ときどき集中していなかったときもあった」が多かったが、今年度はア「真面目に取り組んだ」と同数となった。どのようなタイプの学生が受講するかによって、この数字は変わるのかもしれないが、昨年度の反省を踏まえ、できるだけメリハリのある授業展開を心がけたのが功を奏したのではないかと考えている。また、2の項目で、アの回答が圧倒的に多かったのは、できるだけわかりやすく、興味を持ってもらえるように工夫をしたことに加え、DVDやYoutubeなどを利用して、できるだけ能・狂言の映像を見る機会を増やした結果であると考えている。また、昨年度に引き続き、「〈隅田川〉の演出に関するディスカッション」を行ったことや、グループで謡曲の一部分を口語訳させる作業を行ったことも、古典の知識がある程度必要な能狂言という芸能を身近なものに感じてもらうためには、効果的であった。

また、実際の能狂言の映像については、昨年度の反省を踏まえ、ときどき解説を入れるようにしたのだが、そのことについて評価するコメントも見られた。なお、5に能の作品をもう少し読みたいというコメントがあったように、歴史を学びながら、実際の作品を読解するという方法については、もう少し工夫が必要だと感じた。授業で取り上げる作品を増やすことが、来年度の課題である。